

令和7年度第2回 山形市上下水道事業経営等懇話会

日時：令和7年11月20日(木) 15:15～16:45

場所：山形市上下水道施設管理センター

3階研修室

《 次 第 》

1 開 会

2 上下水道事業管理者あいさつ

3 意見交換 資料

(1) 上下水道事業会計の仕組み

(2) 令和6年度上下水道事業会計の決算について

(3) 山形市上下水道料金の特徴及び他都市との比較について

(4) 質疑応答

4 その他

5 閉 会

令和7年度 山形市上下水道事業経営等懇話会 委員名簿

区分	氏名	所属団体・職名等	備考
知識経験者 (5人)	國方 敬司	山形大学名誉教授	座長
	田牧 大祐	公認会計士田牧大祐事務所	副座長
	工藤 和久	山形県立中央病院 運営企画主幹(兼)経営戦略課長	
	永井 悟	山形ガス株式会社 代表取締役社長	
	松田 直樹	株式会社山形新聞社 編集局長	
各種団体の代表者 (5人)	石岡 蘭子	連合山形地域協議会 女性委員会副委員長	
	斎藤 一美	山形農業協同組合 理事	
	須貝 深	山形市管工事協同組合 副理事長	
	高橋 慶多	山形青年会議所 直前理事長	
	山口 範夫	山形商工会議所 常務理事	
上下水道利用者 (4人)	石井 圭子	全日本美容講師会 山形支部長	
	鈴木 淳子	山形市消費者連合会 会長	
	高橋 梢	山形市社会福祉協議会 つくも保育園	
	星野 みち子	山形市食生活改善推進協議会 会長	

令和7年度 山形市上下水道事業経営等懇話会 事務局名簿

区分	役職	氏名
	上下水道事業管理者	伊藤 浩之
事務局長	上下水道部長	武田 晃芳
事務局	総務課長	小鹿 真之
	次長(兼)経営企画課長	須藤 克弘
	次長(兼)業務課長	高橋 哲弥
	次長(兼)水道管路維持課長	山口 善夫
	水道建設課長	丹野 芳和
	次長(兼)下水道建設課長	真壁 雄二
	浄水政策課長	菅原 真
	水運用センター所長	板坂 学
	浄化センター所長	加藤 聰
	雨水施設建設室長	齋藤 慎次
書記	経営企画課長補佐	井上 大
	経営企画課長補佐(兼)政策企画係長	宮城 一郎
	経営企画課長補佐(兼)経理係長	吉田 直人
	経営企画課広報広聴係長	板垣 裕司
	経営企画課計画調整係長	田中 悠祐

山形市上下水道事業経営等懇話会設置要綱

(設置)

第1条 山形市上下水道部が実施する水道事業及び下水道事業の経営等について広く意見を求める、両事業の効率性と透明性の向上を図り、もって経営の安定化とサービスの向上に資するため、山形市上下水道事業経営等懇話会(以下、「懇話会」という。)を設置する。

(所掌事項)

第2条 懇話会は、次に掲げる事項について意見交換及び提言等を行う。

- (1)両事業の経営に関すること
- (2)将来計画に関すること
- (3)前2号に掲げるもののほか、上下水道事業管理者(以下、「管理者」という。)が必要と認めた事項

(構成)

第3条 懇話会は、委員15名以内で構成する。

2 委員は、知識経験者、各種団体の代表者等及び利用者のうちから、管理者が依頼する。

(任期)

第4条 委員の任期は、2年以内とする。ただし、再任は妨げない。

2 委員に欠員が生じたときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(運営)

第5条 懇話会の運営を円滑に行うため、座長及び副座長各1人を置き、委員の互選により定める。

- 2 座長は懇話会の進行を担当する。
- 3 副座長は座長を補佐し、座長に事故があるときは、その職務を代理する。
- 4 懇話会の庶務は、上下水道部経営企画課において処理する。

(補則)

第6条 この要綱に定めるもののほか、懇話会の運営に関し必要な事項は、座長が会議に諮って定める。

附 則

この要綱は、平成22年12月13日から施行する。

この要綱は、令和6年8月1日から施行する。

令和7年度第2回 山形市上下水道事業経営等懇話会 資料

-
- 1 上下水道事業会計の仕組み
 - 2 令和6年度上下水道事業会計の決算について
 - 3 山形市上下水道料金の特徴及び他都市との比較について

日時：令和7年11月20日（木） 15時15分～16時45分

場所：山形市上下水道施設管理センター 3階研修室

(1)上下水道事業会計の仕組み

上下水道事業は税金ではなく、皆様から頂いた料金（使用料）で運営しています。
会計は、地方公営企業法に基づき、「収益的収支」と「資本的収支」の2つに分かれています。



日々の水道事業を運営するための会計

収入：上下水道料金など
支出：施設の運転・維持管理費、職員の給与費など



水道施設の整備など長く使うものの会計

収入：企業債、補助金など
支出：建設改良費、償還金など

純利益
(収入から支出を差し引いた余り)



留保資金

補てん

↓ わかりやすく、家計に置き換えてみると・・・



毎月の家計簿

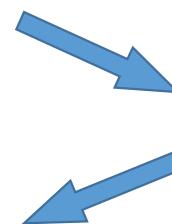
収入：給料、ボーナス、副業収入など
支出：食費、家賃、光熱水費など



家や車など資産を購入する費用

収入：銀行からの借入、資産売却など
支出：車の購入、家電の買い替え、住宅ローンの返済など

貯金
(余ったお金)



貯金

補てん

少し強引な例えですが・・・

家庭では、特別な物（家・車・家電など）を買うとき、家計のやりくりを行い、お金を貯めます。ところが、収入が少ないと、生活費を優先させてしまうので、貯金するお金が少なくなり、大きな買い物を控えようとします。

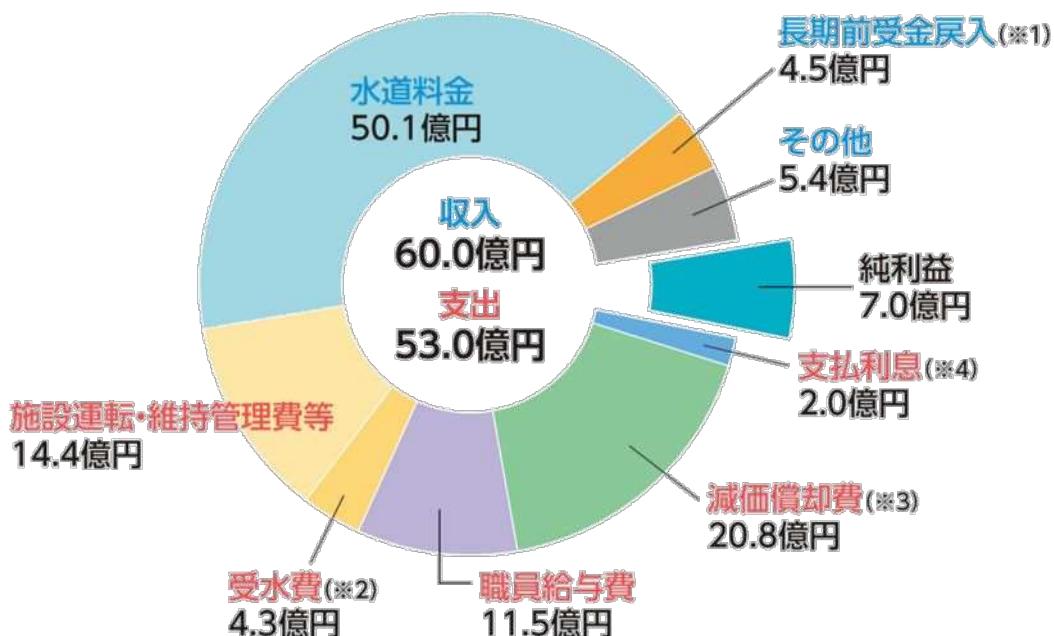
上下水道事業も将来必要になる施設の整備や更新のために、利益を積み立てなければなりません。ですが収入が減ると、今使っている水道水を優先して、老朽化した水管の更新などを後回しにする可能性が出てきます。その結果、水管の破損などで断水のリスクが高まってしまいます。

(2)令和6年度上下水道事業会計の決算について

①水道事業会計

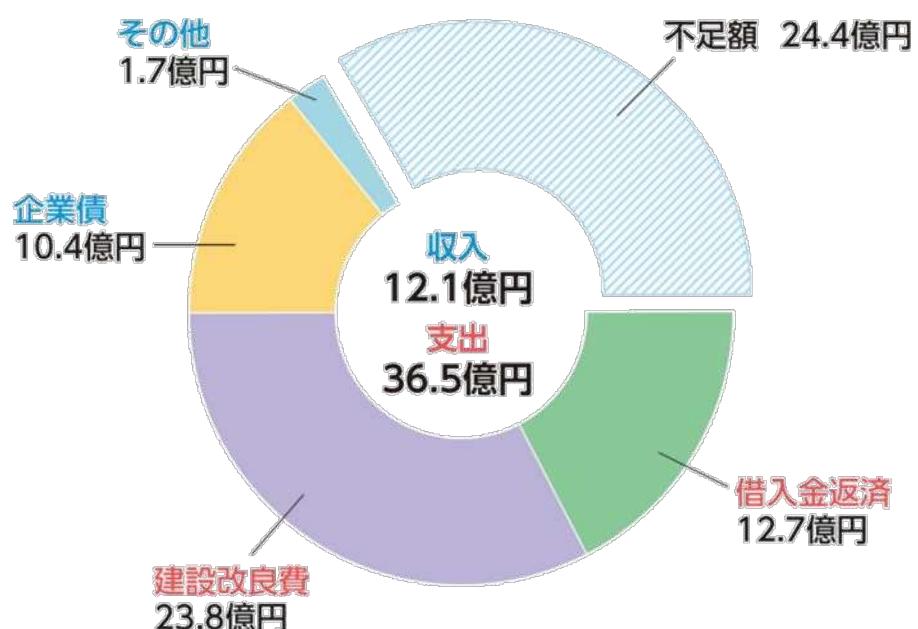
水道事業では、安全かつ良質な水道水の安定供給のために、施設の修繕・維持管理を行いました。また管路の耐震化など、災害対策の強化に取り組みました。

収益的収支 (税抜) 水道水供給のための収入と支出



純利益は翌年度以降の借入金返済や施設整備のため積み立てます。

資本的収支 (税込) 施設を整備するための収入と支出



不足額は純利益や減価償却費等の非現金支出により積み立てられた内部留保資金で補てんしています。

※1【長期前受金戻入】償却資産※の取得・改良のために受けた補助金等の収益化分（非現金収入）

※2【受水費】山形県企業局から水を購入する代金

※3【減価償却費】施設の価値減少分

※4【支払利息】企業債等の借入れに伴う支払利息

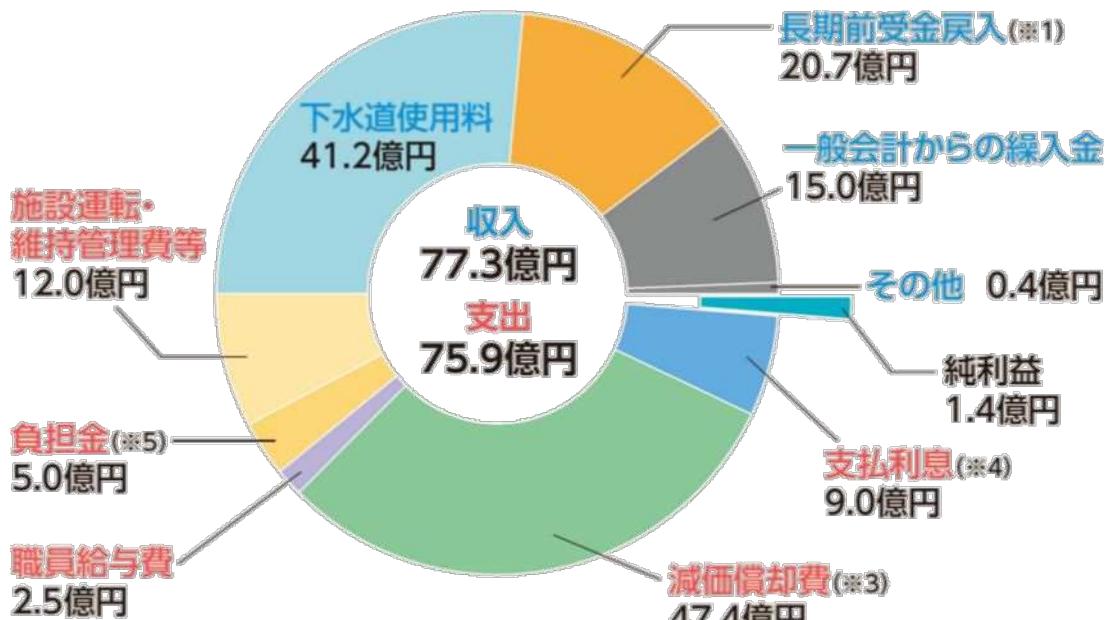
※【償却資産】

固定資産のうち、毎年度減価償却を行るべきもの

② 下水道事業会計

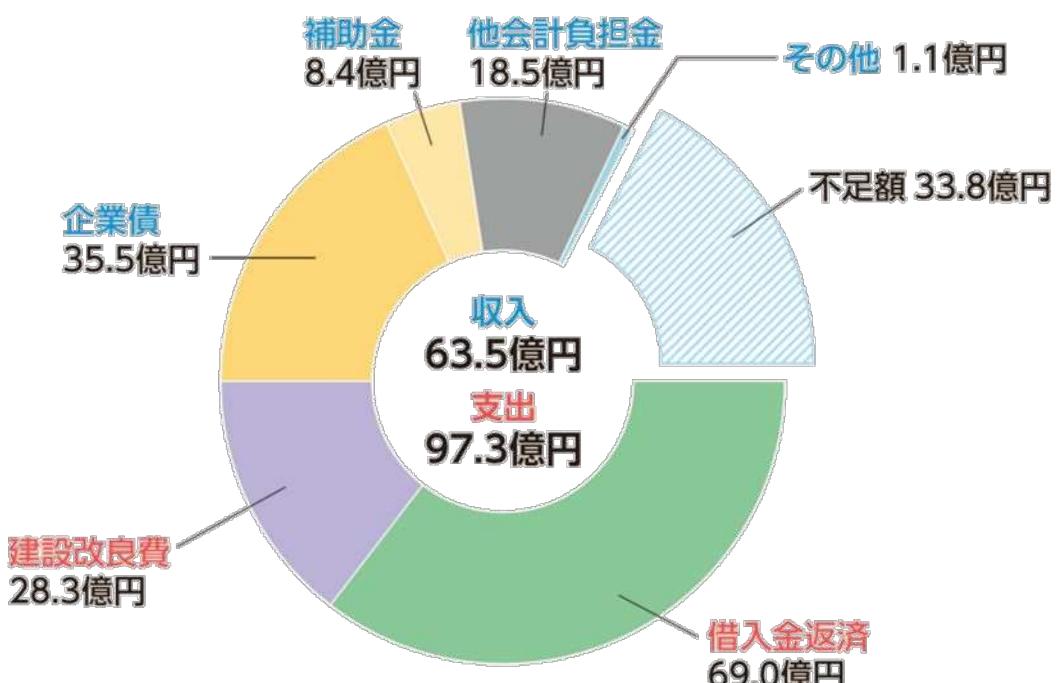
下水道事業では、快適な生活環境の確保と水質保全、浸水被害の軽減のために、施設の維持管理や古い污水管の更新、雨水管の整備工事等を行いました。

収益的収支（税抜）下水処理のための収入と支出



純利益は翌年度以降の借入金返済や施設整備のため積み立てます。

資本的収支（税込）施設を整備するための収入と支出



不足額は純利益や減価償却費等の非現金支出により積み立てられた内部留保資金で補てんしています。

※1【長期前受金戻入】償却資産※の取得・改良のために受けた補助金等の収益化分（非現金収入）

※3【減価償却費】施設の価値減少分

※4【支払利息】企業債等の借入れに伴う支払利息

※5【負担金】山形県の流域下水道施設使用に伴う費用

※【償却資産】固定資産のうち、毎年度減価償却を行るべきもの

(3) 山形市上下水道料金の特徴及び他都市との比較について

①山形市の水道料金の特徴について（水道料金が高いと言われる理由）

ア 山形市の地形

山形市は扇状地であることから、標高差が大きく、浄水した水をポンプで送る必要があり、高台へはポンプ施設の整備やポンプを動かすために電気を使用しています。



イ 人口密度

山形市は人口密度が低く、水道利用者が散在していることから、各家庭に水を届けるために長い距離の水道管を必要とします。

ウ 大口利用者

水道事業の収入は、ほとんどが利用者から支払われる水道料金で成り立っています。ホテルや工場など、水をたくさん使う大口利用者は、水道料金を多く支払うため、水道事業にとって大切な収入源です。しかし、山形市では大口利用者が少なく、十分な収入が得られません。ですので、水道事業を維持するためには、一般家庭の利用者に、より多く負担してもらう必要があります。



水道施設（ポンプ設備、長距離の水道管など）の整備費、ポンプ設備などを動かす電気代などに多額の費用を必要とすることや、大口利用者が少ないとから、どうしても水道料金が高くなる傾向にあります。



②他都市との水道料金比較について

都道府県庁所在地では 8 番目、東北 6 都市では仙台市とほぼ同じ金額で 3 番目。

一方、山形県内では、米沢市に次いで山形市が 2 番目に安い。

■水道料金の比較（口径 13 mm、20 m³/月での比較 令和 7 年 4 月 1 日現在 税込）

ア 都道府県庁所在地の比較（高い順）

順位	都市名	水道料金	前年度 順位
1	長崎市	4,515	(1)
2	福島市	3,718	(2)
3	札幌市	3,652	(3)
4	長野市	3,630	(4)
5	松江市	3,597	(5)
6	仙台市	3,553	(6)
7	佐賀市	3,520	(7)
8	山形市	3,509	(8)
9	さいたま市	3,289	(9)
10	宮崎市	3,235	(17)

順位	都市名	水道料金	前年度 順位
38	静岡市	2,607	(34)
39	鹿児島市	2,585	(35)
39	金沢市	2,497	(39)
41	東京都	2,475	(41)
42	徳島市	2,437	(42)
43	名古屋市	2,425	(43)
44	広島市	2,398	(44)
45	富山市	2,310	(45)
46	福井市	2,255	(46)
47	大阪市	2,112	(47)

- ・都道府県庁所在地の比較では、山形市は高いほうから 8 番目。
- ・最も安い大阪市（2,112 円）と比較すると 1,397 円高い。

イ 東北 6 都市の比較（高い順）

順位	都市名	水道料金	47 都道府県 での順位
1	福島市	3,718	2
2	仙台市	3,553	6
3	山形市	3,509	8
4	盛岡市	2,890	24
5	秋田市	2,860	26
6	青森市	2,728	33

- ・東北 6 都市の比較では、福島市、仙台市につき、高いほうから 3 番目。
- ・最も安い青森市と比較すると 781 円高い。

ウ 県内事業者での比較（高い順）

順位	事業体	水道料金	前年度 順位
1	川西町	5,280	(1)
1	遊佐町	5,280	(1)
3	金山町	5,270	(3)
4	真室川町	5,225	(4)
5	大江町	5,060	(5)
6	南陽市	4,840	(6)
7	最上川中部水道企業団	4,700	(7)

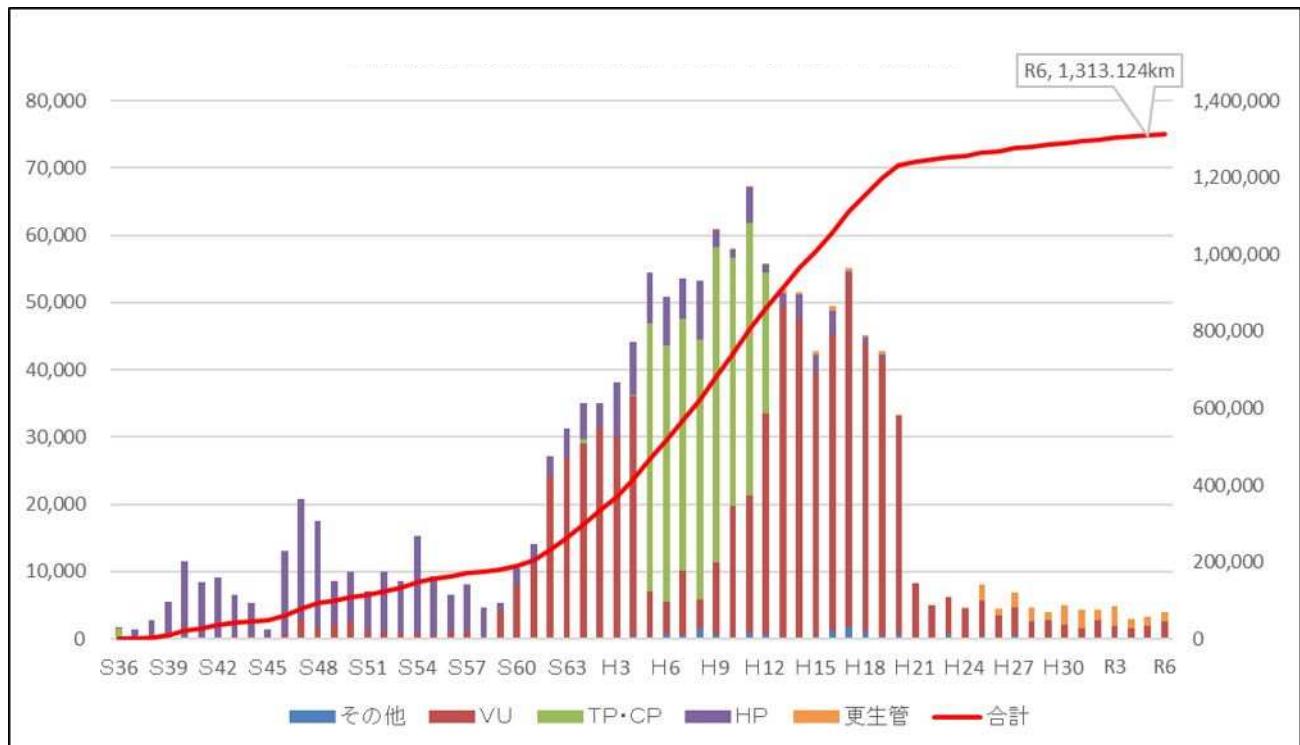
順位	事業体	水道料金	前年度 順位
23	上山市	3,795	(23)
24	河北町	3,784	(24)
25	小国町	3,762	(25)
26	寒河江市	3,751	(26)
27	酒田市	3,564	(27)
28	山形市	3,509	(28)
29	米沢市	3,355	(29)

- ・県内事業者での比較では、2 番目に安い。最も高い川西町、遊佐町と比較すると 1,771 円安い。

③山形市の下水道使用料の特徴について（下水道使用料が高いと言われる理由）

山形市の下水道事業は、市民の快適な生活環境を実現するため、昭和の終わり頃から平成 20 年にかけて積極的に整備を行いました。そのため、後年になってその期間の減価償却費と建設事業に伴う企業債利息の負担が影響し、下水道使用料は高い水準にあります。

■整備延長（令和 6 年度末）



④他都市との下水道使用料の比較について

都道府県庁所在地では高い方から 5 番目、東北 6 都市では 2 番目。

県内の 32 市町村の中では中位（高い方から 19 番目）。

■ 下水道使用料の比較（使用水量 20 m³/月での比較 令和 7 年 4 月 1 日現在 税込）

ア 都道府県庁所在地の比較（高い順）

順位	都市名	下水道使用料	前年度順位
1	長野市	3,534	(1)
2	松山市	3,385	(2)
3	盛岡市	3,377	(31)
4	山口市	3,366	(9)
5	山形市	3,355	(3)
6	長崎市	3,300	(4)
7	佐賀市	3,168	(5)
8	和歌山市	3,139	(6)
9	秋田市	3,113	(7)
10	青森市	3,108	(8)

順位	都市名	下水道使用料	前年度順位
38	東京都	2,068	(38)
39	横浜市	2,035	(39)
40	京都市	2,013	(40)
41	仙台市	1,917	(41)
42	鹿児島市	1,837	(42)
43	名古屋市	1,804	(43)
44	神戸市	1,760	(44)
45	那覇市	1,489	(45)
46	札幌市	1,397	(46)
47	大阪市	1,276	(47)

・都道府県庁所在地の比較では、山形市は高いほうから 5 番目。

・最も安い大阪市(1,276 円)と比較すると、2,079 円高い。

イ 東北 6 都市の比較（高い順）

順位	都市名	下水道使用料	47 都道府県での順位
1	盛岡市	3,377	3
2	山形市	3,355	5
3	秋田市	3,113	9
4	青森市	3,108	10
5	福島市	2,860	21
6	仙台市	1,917	41

・東北 6 都市では、盛岡市に次いで山形市は 2 番目に高い。

・最も安い仙台市(1,917 円)と比較すると 1,438 円高い。

ウ 県内事業者での比較（高い順）

順位	都市名	下水道使用料	前年度順位
1	高畠町	4,290	(1)
2	西川町	4,260	(2)
3	酒田市	4,125	(3)
4	長井市	4,015	(4)
5	河北町	3,938	(5)
	⋮	⋮	⋮
19	山形市	3,355	(19)
	⋮	⋮	⋮

順位	都市名	下水道使用料	前年度順位
22	天童市	3,300	(22)
22	東根市	3,300	(22)
22	小国町	3,300	(22)
28	戸沢村	3,190	(28)
29	庄内町	3,146	(29)
30	真室川町	3,080	(30)
30	舟形町	3,080	(31)
32	最上町	2,910	(32)

・県内事業体の比較では山形市は中位である。最も高い高畠町と比較すると 935 円安い。

⑤上下水道事業の課題

・更新需要への対応

管路や施設は高度経済成長時の拡張や生活環境改善のため、集中的に整備されたことから、老朽化が一斉に増加する見込みです。このため、更新工事に必要な財源や技術者の確保、計画的な施工体制の構築が求められています。

・耐震化への対応

地震発生時の断水リスクを軽減するため、老朽施設や非耐震管の更新・耐震化を計画的に進める必要があります。

・水需要の減少

かつては人口増加や産業活動の拡大により水需要が増加し、水道料金収入が増加する中で施設整備を進めてきました。ところが近年の人口減少や節水機器の普及などで、平成 12 年度をピークに水需要は減少しています。現在では、水道料金収入が減少している中での施設更新や耐震化への対応のため、財源の確保が課題となっています。

令和 6 年の状況 (%)		
	水道	下水道
耐震化率	69 (43.3)	34
経年・老朽化率	20 (25)	5.9 (8)
更新・改善率	0.4 (0.6)	0.1 (0.2)

※耐震化率：【水道】基幹管路 【下水道】全管路

※ () は R5 の全国平均

<今後の大規模な事業>

- ・熊の前配水場の移転
- ・見崎浄水場廃止に伴う新配水場の建設
- ・蔵王ダム導水管の更新

